

# 生活支援 コーディネーター だより

## 中央区第1地域包括エリアの活動報告 ～中央地区第8町内会 おしゃべりサロンについて～

中央地区第8町内会は4棟のマンションに住む住民や地域企業で構成され、町内会活動も盛んに行われている町内会です。現在の活動は主に、あるマンションの1室で行われています。

第8町内会の一番の特徴は、多くの企業と地域住民が混在しているという点です。企業と地域住民の接点づくりを目的に、平成26年から「おしゃべりサロン」という住民の交流活動が会議室を借りて開始されました。

「おしゃべりサロン」は、毎月1、2回、テーマに基づいた講師によるお話を聞く集まりです。参加者からも好評で、活動の拠点として、平成27年に「住民連携文化交流サロンえいと」が開設され、現在は「地域の人が気軽に集まれる場」を目的に、「おしゃべりサロン」だけではなく、企業の方のお話を聞く「地域を知ろう!」や、「健康サロン」、そして「お手伝いサロン」などの活動がなされています。

そんな中、地域住民の方々から、「地域のことを知りたい」「スマホの使い方がわからない」といった声や、介護予防センターからは「歩行能力の低下してきている方が多く、何らかのアプローチが必要」との情報がありました。近くにある専門学校に協力を打診したところ、学校側からも「地域と関わりたい」「1階にあるカフェスペースにもっと地域の方が



きてほしい」という回答をいただきました。

このことから、令和5年10月に「お手伝いサロン」で、「地域の魅力を知ろう!学生との交流もできる!歩いて健康のための活動をしよう!」をテーマにイベントを開催しました。赤レンガ道庁で準備運動をした後に中央地区の様々なスポットを散策し、最後に専門学校にある1階のカフェスペースで学生たちとお食事会をするという内容で、お食事終了後には、学生の皆さんによるミニスマホ相談会が開かれました。

サロン活動や学生との交流を踏まえて、「お手伝いサロン」メンバーの共通認識として「顔を合わせる場を増やし、顔なじみの関係性になることで困りごとが相談しやすくなる!」と再確認しました。

そのために、地域住民に向けてアンケートを配布し、参加したくなるような交流はどういうものか?という設問や、ちょっとした困りごとを抱えている人の掘り起こしに関する設問を設けました。アンケートから地域住民の声を拾い、来年度の「お手伝いサロン」の取り組みに活かせるよう今後も進めていきます。

生活支援コーディネーターは、住民主体の支え合いの仕組みづくりに向けて、地域住民のみなさんの声を聞きながら、お手伝いできることをこれからも一緒に考えていきます。



※写真を一部加工しています。

## 生活支援コーディネーターとは

高齢者の皆さんが住み慣れた地域で暮らし続けられるように、住民の方々が中心となって活動する支え合いの仕組みづくり、支え上手・支えられ上手の地域づくりを推進しています。中央区には、3つのエリアに各1名ずつの第2層生活支援コーディネーターが配置されており、地域住民や様々な団体と協力しながら地域の支え合いをすすめています。

※コーディネーターの活動状況を広報誌「ささえあい」で閲覧できます。➡

